

プレッシャーとの戦い（千曲川水系湯川）

今年は降雪が少なく、雨も多くないので各地の川は渇水状態です。それでも釣り人は川にやってきます。当然魚はおびえて釣れなくなるわけで悪循環なのです。

2007年6月10日 犬山 清史（全国水環境交流会）

■ハイプレッシャー！

プレッシャーといっても「絶対に釣らなければならない」という自分に対するものではありません。確かに釣れるにこしたことはないのですが、ここで言うプレッシャーとは人間が魚にかける圧力を指します。時に溪流釣りではポイントをたたきながら移動していくため、人間が水の中をジャバジャバ歩いたりすると魚は怖がって石の下などに隠れてしまいます。そのため人気のある川では朝一番にポイントに入らないと魚が全く反応しないこともあります。だから釣り人は早起きしてポイントへ向かうんですね。

先行者がいないこと、溪流釣りでは釣果を左右する重要な要素なのです。



撮影時刻 5:12!



上流部ではクマに注意

■軽井沢湯川に決定

「最近イワナの顔を見てないなあ。」と思ってペラペラ雑誌をめくっていると以前から気になっていた川の名前が。千曲川水系の湯川（中禅寺湖上流の湯川と区別して軽井沢湯川と呼ばれる）は浅間山の東側、群馬県との県境に源を発し、中軽井沢駅近くを流れ、いくつかのダムを経て佐久市内で千曲川に合流しています。この川は解禁当初から雪の中でも釣果があがることが知られていて、また軽井沢にはアウトレットや温泉もあり、釣り意外にも楽しめそうな雰囲気。よし、人気河川だから誰よりも先に入って釣りをしようと思いきや夜が明ける前にポイントに向かうのでした。

■夜明け前に

インターを下りてコンビニで入漁券を買って最初のポイントへ。まだ外は真っ暗です。明るくなるまで車の中で待ってみます。空が白み始めて入渓点の橋から下をのぞくとなんともう釣っている人がいるではないですか。こうしてはいられない、急いで準備を始めると続々と人が集まってきました。気がつけば車はいっぱい、釣り人いっぱい。みんなよくもこんなに朝早くから釣りに来るなあ（私もか？）実釣り開始。地元の人がここは放流ポイントだからと言っていました。その通り、釣れたのは放流物のイワナ2匹。あまりの人の多さに1時間ちょっとで移動し、もう少し上流へ。そこは人はいないものの、前日に入ったと思われる足跡が。ちびヤマメを釣り、いいサイズをバラし、またまた移動。ハイプレッシャーの川ではラン&ガン（移動してルアーを打つ足での釣り）が基本。最後には上流部、美しい溪流区間に入りました。ここは人的プレッシャーは低かったのですが渇水で魚の反応はイマイチ。それでも天然



湯水の中津川



見慣れた丹沢ヤマメ

イワナを釣りことが出来ました。

日も高くなってきたし、お昼前には終了。なかなか厳しいコンディションの中、楽しむことが出来ました。

■プレッシャーなら負けてません

湯川も人気があったのですが、私のホームグラウンドである丹沢の川も釣り人の絶えない川です。首都圏から近く、美しい溪流釣りを楽めるのですから平日でも釣り人を見かけます。

私が行ったその日も入渓点には多くの車がとまっていた。でもこの場合はその車の全部が釣り人というわけではなく、ハイカーも多いのでそれほど心配はしません。川を覗くとだれもいないので夕方までの時間を考えて先に歩いて林道を下り、車のある橋まで釣りあがることにしました。

全国的にその傾向があるようですが川に下りてみるとやはり湯水で水位が低く、また水が澄んでいてルアーフィッシング向きの感じではありません。悪い予想はあたるもので魚の反応はなく、いたとしてもちょっと物音を立てるだけで物陰に隠れていってしまいます。人が入っているせいか魚が臆病になっているのがわかります。

瀬も淵もポイントと思われるところは狙ってみますが反応はナシ。最後に目の前に現れた堰堤。ここは白泡が立っていて魚が反応するかも。ルアーを泡の中に投げ、細かいアクションに反応したのは丹沢ヤマメ。厳しいコンディションの中釣り上げた一匹で満足して帰路につくことが出来ました。

これから梅雨に向けて水も増え、溪流が輝くシーズンです。

<フィッシングデータ>

ロッド：スミス インターボロンX TRBX-56MT、トラウター TW53ML

リール：ダイワ セルテート2004フィネスカスタム、セルテート1503

ライン：バリバス スーパートラウトアドバンスVEP3lb、4lb

ルアー：スカジッドデザインズ チップミノールS、工房青嶋 R Y U他

問い合わせ

湯川：佐久漁業協同組合 0267-62-0764

中津川：中津川漁業協同組合 046-281-0822